


栃木市教育のスローガン
「ふるさとの風土で育む 人づくり・まちづくり」

～とちぎ未来アシストネットの推進～

台 風

元号が変わり、誰もが穏やかなスタートを望んでいる中、令和元年10月12日に日本列島を縦断した台風19号は、全国各地に大きな爪痕を残した。本市においても広範囲にわたって河川の氾濫、土砂崩れなどで甚大な被害をもたらし、多くの市民の方々が避難生活を余儀なくされた。私もその一人である。私は、カスリーン台風が関東地方を直撃した夜中に産声を上げた。幼い頃から、当時の台風の様子と自然災害の怖さについて親から何度も聞かされた。それ以降、我が家では、ラジオから台風接近を聞くと、きまって父親は全ての雨戸を閉め、その上から大きな板を釘で打ち付けていた。母親は、ちゃぶ台にろうそくとマッチを置き、釜で炊いたばかりの米をおにぎりにし、大皿に盛っていた。蚊帳の中で子ども心にドキドキしていたことを思い出す。今のようにテレビ、エアコン、冷蔵庫、電子レンジなどの電化製品がない中で、ラジオからの情報だけに頼って夜明けを迎えたこともあった。今では電力や水道に依存する暮らしが当たり前となっている。5年前に本市を襲った豪雨は50年に一度の自然災害と言われた。しかし、今回の台風が残した被害は甚大で、将来に向けて大きな不安と課題



(大平西小学校のようす)

を残した。各園や学校など教育施設にも被害が広がり教育活動に多大な支障をきたした。

教育委員会では、子ども達が安心して学べる教育環境整備に全力で取り組んだ。防災教育の見直しも喫緊の課題である。桜の花が咲く頃には、被害を被った方々のご自宅が少しでも整理され、くつろげる住み家になっていること、そして、強くて優しい素敵な栃木市に一日も早く戻ってほしいと心より念ずるばかりである。

教育長職務代理者 後藤 正人

FMくらら857 教育情報コーナー「月刊 教育委員会 SEASON 3」

栃木市の教育について、ラジオというメディア媒体を活用した広報活動を行っています。放送日時は、毎月、第3金曜日の午前11時～11時53分。

毎回ゲストをお呼びして、教育現場の様子や開催イベントのお知らせをしています。

小野寺北小学校の統廃合

「三杉にい 映ゆるう 諏訪がたけえ ゆいしょも深きい てらやしろ」

意味もわからず大声で歌った母校、小野寺北小学校の校歌の冒頭です。木々に恵まれ、冷たい川に足をひたした、故郷の情景です。

産業構造の変化と、調整区域の足かせによって、城の砂が崩れるようにふるさとの人口は減少していきました。そんなおり行われた市町村合併は、圧倒的少人数の母校の序列をさらけだしました。不安になった親御さんたちは、子供に多人数生徒との競争環境を望みました。母校の統廃合の報を聞いたとき、卒業生として感じたのは、応援するスポーツチームが負けたような、やるせなさでした。

小野寺北小は、そのページを閉じて、アルバムにはる写真はもうありません。それならば、統合してできる小野寺小学校の写真を撮ればいい、と考えるのは敗残者の論理です。アルバムではなく、最新IT動画集を作るのです。発想を根底から変えるのです。この統合後そう遠くない時期に、産業構造が逆回転を起こし、AIは今までの常識では説明できない意識改革、例えば自宅勤務の労働形態などを人間に突きつけるでしょう。

それによって、リアルな自然環境と共生して人間性の熟成を求める本来的欲求が頭をもたげ、肌感覚への渴望が、計らずも、過疎地に人を向かわせると確信しております。

新小学校の子供たちは、都会の仮想実現とは違う本物の水晶を川底に見出したときの喜びを透明な心に刻みつつ、AIに生活をゆだねながらも、新しい時代の新しい校歌を、意味もわからず高歌すると信じてやみません。

教育委員 林 慶仁

教育委員の仕事

分かっていそうで分からない教育委員の仕事を具体的にご紹介します。

教育は公的なものですが、教育に政治的な介入を防ぐために民意を反映できるような住民の代表6名で構成されています。保護者代表を必ず含むというきまりもあります。より公正な偏った教育にならないように検討していく、というのが最大の役割です。その為に、月に一度定例教育委員会を公開で行います。市役所の職員と元教員などで構成された事務局が法律に基づき、具体的に決めた政策などについて検討します。教育・文化・スポーツと多様な内容に関わります。

その他の主な仕事を挙げます。

- ①学校を訪問し、授業や運動会等の実際の現場を参観します。
- ②市長と教育に関する話し合いの場をもちます。
- ③文科省や県教委等の研修会に参加します。
- ③成人式や教育委員会の主催する行事等に参加します。
- ④教科書改訂の際はその採択をします。

私自身も実際に仕事をしながら、勉強させていただいています。未熟なため分からないこともまだまだありますが、全ては子ども達の為、保護者の為という気持ちで、栃木市の教育が日々良くなっていくことを心から願って、これからも努力してまいります。

教育委員 大橋 孝子

学校訪問

毎回楽しみにしております。私たちは2チームに分かれて年に5校を訪問します。

午前中は授業見学。今は机の配置も自由で、各学校とも工夫されています。授業形式もPCを使い小学校の時からPCに慣れ、使えるよう指導し、これからのプログラミング教育へとおおいに役立つことと思います。

教室内の掲示板も見るのも楽しみの一つです。季節に沿ったデコレーション、書道、作文、絵などの展示、写真入りの自己紹介文もあります。

授業見学後、校長先生より学校経営の概要についての説明があります。それぞれの学校の校長先生の生徒に対する熱い思い、地域の方々への感謝の気持ちは尽きません。

そして楽しみ給食タイム！子ども達と一緒に食べる給食も格別。食事中には家の話、テレビの話、スポーツの話など話題は盛沢山。楽しい話題につい引き込まれてしまいます。後片付けもハイハイと気持ちよく引き受けてくれるので、家でもお手伝いしているのかな？親切な子ども達に助けられます。

この優しい心、そして笑顔が続きますよう、毎朝「いってきまーす！」と元気に出かける姿を見守りたいです。

教育委員 西脇 はるみ

ごあいさつ

昨年の11月25日付けで教育委員を務めさせていただくことになりました、舘野知美と申します。責任のある役割に身の引き締まる思いですが、栃木市の教育、発展のために精一杯関わってまいります。

子育て時代を振り返ると、自分自身は教育委員会とは縁遠いと思っていましたし、よくわからないなというのが正直な思いでした。まだ就任僅かですが、活動が多岐にわたり関わる物事の多さに大変驚きました。定例会では今まで関わってきた市での活動一つ一つの点が線で結ばれ繋がっているということを実感しました。優しく、熱心に関わる委員の皆様や市職員の方々を支えられ活動できることに感謝いたします。

私は、栃木市内の児童発達支援・放課後等デイサービスの事業所で働いています。日々子どもたちと触れ合いの中で喜怒哀楽を共に感じられること、一つ一つの経験を通し、小さな「できた」を積み重ねて「できる」自信を感じた時のキラキラした目の輝きや、とびっきりの笑顔の子どもたちの成長に関われていることに幸せを感じています。

大切にしている思いがあります。それは、「響関者になろう」ということです。子どもたちと一緒に遊び（関わり合い）、わくわくドキドキを一緒に感じる（響き合う）、心が動く経験を沢山したいと思っています。

今日、少子高齢化の進行、グローバル化、IT社会、AI技術の更なる進展など、変化の大きな社会の中で、子どもたち一人一人の個性を大切に「生きる力」を育むために、教育委員として一つ一つの活動や協議を通して、ありのままの自分が感じることを発信していきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

教育委員 舘野 知美



おやじの会

ある中学生のお父さんの一言が今も胸に残る。
「父親が学校に行ってもいいの？」

母親にはかなわないけれど、父親も我が子のために日々頑張っているはずだ。そんな彼らには、堂々と学校に来て、我が子の姿をたくさん見てもらいたいと思った。小中学校にある「おやじの会」が学校と父親の懸け橋になってくれればと願う。

私は5歳の時に父を亡くした。だから私の父は息子たちの学校生活を見ていない。無念だったと思う。父親にとっても成長期の我が子の姿は人生の宝物なのだから。

教育委員 福島 鉄典



歩く速度で ～私流、ウォーキングのすすめ～

自宅から徒歩で片道25分のところにある小さな社やしろに、元旦を節目に願掛けで始めた早朝の参拝。かれこれ10年以上経つ今なお続けているのは、願いが成就したこと以上に副産物が大きかったからです。体調がすこぶる良くなっただけでなく、前日の夜にあれやこれやと考えあぐねていたことも、季節の移ろいを肌で感じながら一步一步あゆみを進めていくうちに、自然と頭の中が整理され、自宅に戻る頃には不思議に考えがまとまっているのです。思い起こせば、新任校長時代に地域に伝わる「音頭」の歌詞の補作を依頼されたときのこと。自分にそんなことができるのかと躊躇しつつもいざ始めてみると、体に染みこませたメロディーを感じながら踏み出す一步に合わせて、天から言葉が降りてくるような不思議な体験をしたのも早朝のウォーキングの最中でした。更には、かじかむ手をぎゅっと握りしめて足早に歩く冬枯れの畦道で、春一番に咲くと言われる「イヌノフグリ」の小さな紫色の花を見つけた時の、小躍りしたくなるような感動にも出会うことができました。

今、世の中がどんどん便利になり、私たちの生活は効率化の一途をたどっています。時間的にも物理的にもロスなく移動できたり、欲しい物や情報が簡単に手に入るようになりました。しかし、人と人との関係性に限っては「効率化」に走るべきではないと思っています。互いに顔を合わせ、思いや考えを伝え合い、ときにぶつかったりしながらも時間をかけて分かり合っていく…… そのような過程を踏んでこそ、揺るぎない信頼関係が築かれるのではないのでしょうか。

教育委員会と学校、保護者、そして地域の皆様との関係も、一步一步、歩く速度で、しかも確実に強めていけたらと願っています。

教育長 青木 千津子



【編集後記】

“教育委員会だより 絆” は市民の皆様にも、教育への関心を一層高めてもらうため、‘開かれた教育委員会’としての活動を「分かりやすく」「親しみやすく」紹介していきます。

※ご意見・ご感想は
こちらまでお寄せください。

栃木市教育委員会教育総務課 〒328-8686 栃木市万町9-25
電話：0282-21-2467 FAX：0282-21-2689 Email：kyoumu@city.tochigi.lg.jp